

○ 中学校再編計画の進捗状況について

その他の質問

- ・避難所のマンホールトイレ整備について
- ・学校再開後の教職員の勤務状況について



新風会・公明
吉田清隆
議員

問 昨年7月26日の勝山市立中学校再編検討委員会からの答申を受け、8月6日に「勝山市立中学校再編に係る特別要望」を県に提出し、8月25日に市内3中学校で「1校に統合し、勝山高校との併設が最も望ましい」との説明会を開催した。市民からは「中学校再編と勝山高校併設が抱き合わせになって問題が難しくなった。県は併設してもいいと言っているのか。」「まず勝山高校の魅力を高める必要がある。」「県教育委員会の高校再編計画見直し議論を待つべきだ。」との意見があった。

答 同検討委員会から示されたスケジュールでは、2024年から2025年度の統合を目指す所であり、検討期間が少ないと思うが、勝山市立中学校再編計画の現状と今後のスケジュールについて伺う。

問 答申が「再編統合する新中学校の立地場所を勝山高校との併設または近接として、中高の連携を進めるべき」という内容であったことから、答申の内容と中高連携のメリットや必要性について県教委に説明し、理解を求めている。

答 一方、県教委では「高等学校教育問題協議会」において、今後の県立高校のあり方について検討を進め、今年6月には同協議会から答申が出され、「今後の普通科高校は、地域との協働の下に特色化・魅力化を図り、できる限り存続することが望ましい」との考え方が示された。その方向性は、現在の勝山市の取組みに合致している。

現在、市教委、県教委、勝山高校の三者協議の場を持ち、中高連携に関する具体的な課題などについて話し合いを進めている。十分な意思疎通を図りながら協議を続け、県との協議が整えば、中学校再編計画案をつくり、市議会や市民へ丁寧な説明をして意見を伺いながら、正式な再編計画を策定していく。その際、当初目標としていた開校年度には拘らず、最良の形で実現するようにしていきたい。

○ 3歳児健診における弱視の早期発見について ○ 行政手続きのデジタル化でオンライン申請の推進を

その他の質問

- ・行政手続きにおける押印廃止と書面主義の見直しについて
- ・カラスの糞害対策について



新風会・公明
安岡孝一
議員

問 平成29年4月7日付け厚生労働省通知「3歳児健康診査における視力検査の実施について」には、「子どもの目の機能は生まれてから発達を続け、6歳までにほぼ完成するが3歳児健康診査において強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視が見逃された場合に治療が遅れ、十分な視力が得られないと指摘されていること」またそのことを「周知すること」と記載されている。日本小児眼科学会では、視力検査に加え、フォトスクリナー等を用いた屈折検査の実施を推奨している。

答 弱視の早期発見、早期治療のため、屈折異常検査の大切さを保護者に通知するとともに、機器の導入を検討するべき。

問 現在、ランドルト環を用いた視力検査を実施しているが、月齢や子どもの発達の度合いによって検査が適切にできない場合もあり、個々の状況に合わせて検査実施状況を追跡し、必要に応じて精密検査を勧めている。

答 県内の他市町では、屈折異常検査の機器を導入し視力検査を実施しているところもあるので、今後研究していきたい。

問 住民サービスの向上や行政の効率化のために「マイナポータル・ぴったたりサービス」のフル活用など、現行制度やシステムを活用してできることから先んじて進めるべき。

答 「ぴったたりサービス」は、市民が居住する自治体のオンライン手続きへと誘導するための優れたシステムだが、手続きを完結させるまでに他のシステムとの連携が必要である。

現在、窓口の電子化、庁内の電子決裁、出勤システム、テレワーク制度検討にむけた一体的なシステム導入を目指し、「ぴったたりサービス」やその他のSNSサービスなどの利用も含め、市役所に来なくても手続きができるよう検討している。引き続き、住民サービスの向上と行政の効率化を目指していきたい。